

第63回日本西洋史学会大会

大会プログラム

会場 京都大学吉田キャンパス内 百周年時計台記念館 文学部校舎 他

第1日目：5月11日（土）

- * 東/西日本懇談会 11:00～11:30（文学部校舎2階 第4・5講義室）
- * 理事校会議 11:30～12:00（文学部校舎地下1階 大会議室）

受付開始 12:00 百周年時計台記念館1階フロア

全体シンポジウム 13:30～16:30 百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール
「東アジアの「西洋史学」 — 国境を越えた対話をめざして —」

基調報告：林志弦（Lim Jie-Hyun 漢陽大学（ソウル）比較歴史・文化研究所所長）
「世界史 — ナショナル・ヒストリーへの布石 —」（World History as a Nationalist Rationale）

コメント： 小田中直樹（東北大学教授） 佐々木博光（大阪府立大学准教授）
橋本伸也（関西学院大学教授） 長谷川貴彦（北海道大学准教授）
長谷川まゆ帆（東京大学教授）

司会： 小山 哲（京都大学教授）

総会 16:30～17:00（百周年時計台記念館 1階 百周年記念ホール）
懇親会 18:00～20:00（百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール）

第2日目：5月12日（日）

受付開始 8:30 文学部校舎2階フロア

部会別自由論題報告 9:30～12:30 百周年時計台記念館 文学部校舎 他

小シンポジウム（1～6） 13:30～17:00 百周年時計台記念館 文学部校舎 他

第63回日本西洋史学会大会準備委員会 事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科 西洋史学研究室内

FAX : 075-753-2791（「第63回日本西洋史学会大会準備委員会宛」と明記）

Email : seiyousi@bun.kyoto-u.ac.jp（問い合わせ一般）

大会ウェブサイト : <http://www.seiyoushigakkai.sakura.ne.jp/2013/index.html>

第2日目 部会別自由論題報告（発表25分 質疑応答10分）

所属などは本年3月時点のもの

古代史部会1 _____ 9:30~12:30

- 1 根本泰充（東洋大学大学院生）
「前4世紀アテナイの契約における集団の権利・責任
—金銭貸借・不動産貸借・請負契約における契約主体としての集団—」
司会：前沢伸行（首都大学東京教授）
- 2 森谷公俊（帝京大学教授）
「イランにおけるアレクサンドロス遠征路の現地調査 —ペルセポリスへの道—」
司会：長谷川岳男（鎌倉女子大学教授）
- 3 岸本廣大（京都大学大学院生）
「アイトリア連邦における市民権と外交関係」
司会：中井義明（同志社大学教授）
- 4 中尾恭三（大阪経済法科大学非常勤講師）
「前242年コス島の使節団派遣と大アスクレピエウア創出」
司会：師尾晶子（千葉商科大学教授）
- 5 伊藤雅之（東京大学大学院生）
「アンティオコス3世のギリシア進軍
—セレウコス朝の外交とアイトリア指導層の動向—」
司会：長谷川岳男（鎌倉女子大学教授）

古代史部会2 _____ 10:05~12:30

- 1 石田真衣（大阪大学大学院生）
「プトレマイオス朝エジプトにおける嘆願と和解 —テーベ地方を中心に—」
司会：周藤芳幸（名古屋大学教授）
- 2 本間俊行（室蘭工業大学非常勤講師）
「五賢帝期ローマ帝国における教養人と都市 —アプレイウス『弁明』に関する—考察—」
司会：阪本 浩（青山学院大学教授）
- 3 池口 守（久留米大学准教授）
「ポルトゥス築造後のローマへの食糧供給システム」
司会：坂口 明（日本大学教授）
- 4 小坂俊介（東北大学大学院生）
「アンミアヌス・マルケリヌス著『歴史』における書記官「鎖」のパウルの記述」
司会：後藤篤子（法政大学教授）

中世史部会 _____ 9:30~12:30

- 1 菊地重仁（東京大学客員研究員）
「カロリング期文書コミュニケーションにおける君主の尊称について」
司会：加納 修（名古屋大学准教授）

- 2 北館佳史 (中央大学非常勤講師)
「ポンティニー修道院と隣人たち ―聖エドム崇敬の展開を中心に―」
司会: 舟橋倫子 (中央大学非常勤講師)
- 3 横川大輔 (北海道大学専門研究員)
「1410年の二重国王選挙と「金印勅書」
―神聖ローマ帝国における「金印勅書」の受容史の一断面―」
司会: 皆川 卓 (山梨大学准教授)
- 4 濱野敦史 (首都大学東京大学院生)
「中世末期トスカーナにおける賃金労働者の採用活動 ―一家の使用人の事例から―」
司会: 亀長洋子 (学習院大学教授)
- 5 上柿智生 (京都大学大学院生)
「15世紀のギリシア系知識人とオスマン宮廷 ―ゲオルギオス・アミルヅィスを例に―」
司会: 草生久嗣 (大阪市立大学講師)

近世史部会 1 10:05~12:30

- 1 奥田真結子 (専修大学大学院生)
「ピーテル=ブリューゲル絵画に残る社会的結合 (ソシャビリテ) の痕跡」
司会: 森田安一 (日本女子大学名誉教授)
- 2 加来奈奈 (奈良女子大学大学院生)
「16世紀前半ネーデルラント中央政府の渉外活動
―1529年カンブレ平和条約履行における君主・外国・地方―」
司会: 河原 温 (首都大学東京教授)
- 3 柏渕直明 (明治大学大学院生)
「有力市民アーニョロ・デ・バルディの遺産分割
―16世紀フィレンツェにおける有力市民の姻族関係―」
司会: 石黒盛久 (金沢大学教授)
- 4 小林繁子 (上智大学プロジェクトPD)
「近世マインツ選帝侯領における請願とポリツァイ ―魔女裁判の財産没収法令を例に―」
司会: 踊 共二 (武蔵大学教授)

近世史部会 2 9:30~12:30

- 1 岡本 明 (海上保安大学非常勤講師)
「リシュリュー宰相期 (1624~1642) の官職保有者集団」
司会: 石井三記 (名古屋大学教授)
- 2 武田和久 (学習院大学大学院生)
「スコットランドにおける宗教対立と長老教会のジレンマ ―革命体制受容の一断面―」
司会: 富田理恵 (東海学院大学准教授)
- 3 菊池雄太 (早稲田大学大学院生)
「ハンブルク - リューベック - バルト海 ―近世におけるハンザ商業路と商品流通―」
司会: 斯波照雄 (中央大学教授)

- 4 日尾野裕一（早稲田大学大学院生）
「ブリテンの船舶必需品調達と北米北部植民地政策
—1722年の海軍資材法改正を中心に—」
司会：岩井 淳（静岡大学教授）
- 5 上村敏郎（筑波大学特任研究員）
「啓蒙専制期ハプスブルク君主国におけるコミュニケーションネットワーク
—いかにしてウィーンで禁書は流通していたのか—」
司会：山之内克子（神戸市外国語大学教授）

近代史部会 1 9:30~12:30

- 1 田村理（北海道大学大学院生）
「「環大西洋革命」期のイギリス地方都市における急進主義と奴隷解放論」
司会：松塚俊三（福岡大学教授）
- 2 清原和之（九州大学大学院生）
「女性預言者ジョアンナ・サウスコットの「神の子」妊娠
—ナポレオン戦争期イギリスにおけるメディアと信用経済をめぐって—」
司会：坂下 史（東京女子大学教授）
- 3 正木慶介（エディンバラ大学大学院生）
「ピット・クラブ：トーリ党の全国的政治ネットワークに関する一考察、1808-1832」
司会：青木 康（立教大学教授）
- 4 久保洋一（同志社大学研究員）
「都市の共同墓地 —19世紀イギリスの死者の共同体に関する考察—」
司会：指 昭博（神戸市外国語大学教授）
- 5 田村俊行（立教大学大学院生）
「19世紀英国における伝染病法
—議会の論戦に引用される専門家の言葉を手がかりに—」
司会：永島 剛（専修大学准教授）

近代史部会 2 10:05~12:30

- 1 鹿野美枝（立教大学大学院生）
「小ピット政権のインド政策に関する一考察
—18世紀末のイギリス正規軍のインド派遣論争をめぐって—」
司会：坂本優一郎（大阪経済大学准教授）
- 2 伊東剛史（金沢学院大学講師）・高林陽展（東洋大学研究助手）
「自然誌・医学・帝国統治 —19世紀後半イギリスにおけるコブラ毒の議論をめぐって—」
司会：永島 剛（専修大学准教授）
- 3 北政巳（創価大学教授）
「ヴィクトリア期英帝国の繁栄とエルギン伯爵一族の歴史
—スコットランド貴族の参画と貢献—」
司会：木畑洋一（成城大学教授）

- 4 和田応樹 (同志社大学大学院)
「インド総督第4代ミントー伯爵とその妻メアリ
—20世紀初頭インド統治におけるイギリス帝国の貴族—」
司会: 本田毅彦 (帝京大学准教授)

近代史部会 3 _____ **10:05~12:30**

- 1 平松英人 (東京大学研究員)
「19世紀ドイツにおける自由主義と都市救貧事業 —ケルンを例として—」
司会: 北村昌史 (大阪市立大学教授)
- 2 巽由紀子 (東北大学東北アジア研究センター非常勤研究員)
「近代ロシアの商業出版と評論家V・V・スターソフ」
司会: 高橋一彦 (神戸市外国語大学准教授)
- 3 村田奈々子 (法政大学非常勤講師)
「バルカン戦争期の「ヘレニズム」 —ギリシア・ナショナリズムとマケドニア—」
司会: 中島崇文 (学習院女子大学准教授)
- 4 吉野恭一郎 (上智大学科目等履修生)
「第一次世界大戦とジークフリート・クラカウアー」
司会: 小野清美 (大阪大学教授)

近代史部会 4 _____ **10:05~12:30**

- 1 櫻井文子 (東京大学大学院学術研究員)
「フランクフルトの「アフリカ」
—19世紀前半のドイツ語圏における自然誌コレクションの有用性—」
司会: 藤原辰史 (東京大学講師)
- 2 小暮実徳 (明治大学文学部兼任講師)
「19世紀中葉の欧米列強によるアジア戦略とそのネットワーク形成過程の解明」
司会: 林 義勝 (明治大学教授)
- 3 鈴木楠緒子 (神奈川大学非常勤講師)
「ドイツ帝国成立期における在華ドイツ系領事館の統廃合問題
—「大南澳開墾阻止事件」(1868—1869年)への対応を例として—」
司会: 浅田進史 (駒澤大学講師)
- 4 大井知範 (明治大学助教)
「20世紀初頭の東アジア地域におけるハプスブルク帝国海軍
—ハプスブルク帝国とグローバリゼーション—」
司会: 大津留厚 (神戸大学教授)

現代史部会 1

9:30~12:30

- 1 森下嘉之 (日本学術振興会特別研究員 PD)
「戦間期の国家形成における宗派とネイション
—チェコ、ポーランド、ドイツ境界地域を例に—」
司会: 林 忠行 (京都女子大学教授)
- 2 鍋谷郁太郎 (東海大学教授)
「ポスト冷戦期ドイツにおける第一次世界大戦研究と歴史家たち」
司会: 木村靖二 (東京大学名誉教授)
- 3 長沢優子 (東京大学大学院生)
「「文化共同体」から「民族共同体」へ?
—ドイツとオーストリアの合邦推進団体による文化事業—」
司会: 松本 彰 (新潟大学教授)
- 4 穴山朝子 (お茶の水女子大学 アカデミック・アシスタント)
「ナチ政権下の芸術家 —ある出版社の人的ネットワークを手がかりに—」
司会: 若林美佐知 (東京女子大学非常勤講師)
- 5 岡内一樹 (京都大学大学院生)
「誰がための森林? —西ドイツにおける自然公園とナショナルパーク(1949-1970)—」
司会: 若尾祐司 (名古屋大学名誉教授)

現代史部会 2

9:30~12:30

- 1 山手昌樹 (上智大学特別研究員)
「1930年代イタリアの農村家族調査と農民観」
司会: 北村暁夫 (日本女子大学教授)
- 2 桑島 穂 (大阪市立大学ドクター研究員)
「1940-50年代の植民地アシャンティ (現ガーナ中部) におけるチーフと学校教育
—中等学校プレンペ・カレッジの設置 (1949年) をめぐって—」
司会: 永原陽子 (東京外国語大学教授)
- 3 Pallavi BHATTE (京都大学大学院生)
「アメリカ、イギリス、ドイツにおけるインド独立運動 —ディアスポラの貢献—」
司会: 長崎暢子 (龍谷大学現代インド研究センター センター長)
- 4 藤岡真樹 (京都大学大学院生)
「冷戦初期のアメリカ合衆国の学術世界における「新秩序」の形成」
司会: 中野耕太郎 (大阪大学准教授)
- 5 稲垣健志 (近畿大学非常勤講師)
「1980年代におけるノッティングヒル・カーニバルの体制内化と移民コミュニティ
—カーニバル発展委員会の活動を中心に—」
司会: 小笠原博毅 (神戸大学准教授)

小シンポジウム（1～6）

小シンポジウム 1

「日本の西洋古代史研究：回顧と展望 —独自性と国際性、貢献をめぐって—」

趣旨説明：南川高志（京都大学教授）

報告1：佐藤 昇（神戸大学准教授） 日本における古代ギリシア史研究の現在

報告2：高橋亮介（慶應義塾大学非常勤講師） 日本における古代ローマ史研究の現在

報告3：藤井 崇（オクスフォード大学研究員） 欧米からみた日本の西洋古代史研究

報告4：長谷川岳男（鎌倉女子大学教授） 西洋古代史研究の貢献

コメント：南雲泰輔（日本学術振興会特別研究員） これからの「日本の」西洋古代史研究

小シンポジウム 2

「中世ヨーロッパにおける政治的コミュニケーションと秩序 —境界地域から—」

趣旨説明：服部良久（京都大学教授）

報告1：朝治啓三（関西大学教授） 1259年パリ条約以後王子エドワードのボルドー政策

—領有者プランタジネット家と都市コミュニーのコミュニケーション—

報告2：松本 涼（静岡大学非常勤講師）

13世紀アイスランド社会とノルウェー王権 —忠誠と反逆の狭間で—

報告3：高田良太（駒澤大学講師）

13、14世紀クレタにおけるヴェネツィア支配とギリシア人 —「反乱」時代の秩序形成—

報告4：藤井真生（秀明大学准教授） 中世後期チェコにおける貴族共同体と「外国人」

小シンポジウム 3

「近世ヨーロッパにおける礫岩国家 —複合する政体、集塊する地域—」

問題提起：近藤和彦（立正大学教授） 問題提起 —礫岩国家と普遍君主—

報告1：古谷大輔（大阪大学准教授） 礫岩国家スウェーデンと多様な地域集塊の論理

—スコーネ地方の併合にみる「バルト海帝国」の形成プロセス—

報告2：後藤はる美（国際基督教大学研究員） 「君主のいない共和国」と礫岩国家

—17世紀イングランド・スコットランドの法の合同論をめぐって—

報告3：中澤達哉（福井大学准教授） ハプスブルク帝国の礫岩国家編成と集塊理論

—非常事態への対応：服属地域ハンガリー王国からの正統化—

報告4：中本 香（大阪大学准教授） 王朝の交代と礫岩国家スペインの変質

—「新組織王令」にみるブルボン朝スペインの統治理念と実態—

コメント：内村俊太（神奈川大学非常勤講師）

近世スペインにおける歴史意識研究の立場から見た礫岩国家研究

コメント：渋谷 聡（島根大学教授） 近世神聖ローマ帝国研究の立場から見た複合国家研究

小シンポジウム 4

「ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム ―宗教を通して見るもうひとつの「近代」―」

趣旨説明：中野智世（京都産業大学准教授）

報告1：前田更子（明治大学講師） 公教育のなかの宗教

―19世紀フランスにおける女性教員の養成をめぐる―

報告2：尾崎修治（上智大学非常勤講師） 19世紀末ドイツのカトリック労働運動

―階級と信仰のあいだで―

報告3：渡邊千秋（青山学院大学教授）

20世紀前半スペインにおけるカトリック的集合心性を考える

―青年平信徒のプロソポグラフィから―

コメント1：村上信一郎（神戸市外国語大学教授）

イタリアにおける国家教会関係史研究とカトリック運動史研究の視点から

コメント2：深沢克己（東京大学教授）「世俗化」史観の再検討―フランス近世史からの眺望―

小シンポジウム 5

「市民の自分史 ―前世紀転換期から戦間期のエゴドキュメント―」

趣旨説明：槇原 茂（島根大学教授）

報告1：長田浩彰（広島大学教授） 境界に立つ市民としての矜持と限界

―ユダヤ人家族を持ったアリア人作家ヨッヘン・クレッパ（1903-1942）―

報告2：長井伸仁（上智大学准教授）

世紀転換期フランスにおける聖職者の市民意識と自分史

―ピエール・ダブリ（1864-1916）―

報告3：寺田由美（北九州市立大学准教授）

20世紀初頭アメリカ合衆国における女性労働者の組織化

―ローズ・シュナイダーマン（1872-1972）のシティズンシップ観―

報告4：槇原 茂（島根大学教授） 「農民」と「市民」のあいだ

―ブルボネの農民、ジュール・ルージュロン（1861-1945）と共同性―

コメント1：松井康浩（九州大学教授） ソ連史の立場から

コメント2：小田中直樹（東北大学教授） 「市民の自分史」と歴史学の方法

小シンポジウム 6

「第一次世界大戦再考」

趣旨説明：小関 隆（京都大学准教授）

報告1：山室信一（京都大学教授） 「世界性」認識と学知の転回

報告2：藤原辰史（東京大学講師） 総力戦を生きのびる

報告3：岡田暁生（京都大学准教授） 第一次世界大戦と「芸術」の変容

報告4：野村真理（金沢大学教授） 「未完の戦争」東部戦線によせて

コメント1：中野耕太郎（大阪大学准教授） アメリカ史の視点から

コメント2：林田敏子（摂南大学准教授） ジェンダーの視点から